

熊本地震復興支援調査報告会

2017年5月21日(日)

熊本地震復興支援調査委員会

公園緑地について：村上修一

農業支援について：朝廣和夫

集落景観について：柴田祐

自然公園について：町田怜子

ランドスケープ遺産について：藤田直子

今後の取り組みに向けて：総合ディスカッション

熊本地震復興支援調査報告会

熊本地震における都市公園の利用実態

平成28年(2016年)熊本地震都市公園利用実態共同調査

参加主体(順不同):

熊本市都市政策研究所, 国土交通省 国土技術政策総合研究所, (一財)公園財団, 九州大学, 滋賀県立大学, 大阪府立大学, (公財)都市緑化機構 防災公園とまちづくり共同研究会, 大都市都市公園機能実態共同調査実行委員会, (一社)日本公園緑地協会, 熊本市

目的

地震発生後

公園における自助・共助活動の実態把握

今後の公園整備に向けた知見

調査概要

2016年8月7日～9日

対面ヒアリング調査

熊本市内 33公園

52名



街区公園	19
近隣公園	10
地区公園	2
広域公園	1
都市緑地	1

自治会会長	25
公園愛護会会長	20
自主防災組織会長	2
自治連会長,老人会 会長,公民館長 他	5

1. 地震前の災害対応活動

項目	有無	箇所数
災害対応 マニュアル	有	10
	無	20
災害時 連絡体制	有	18
	無	12
公園を使った 防災・避難訓練	有	23
	無	8

その他：
非常食試食
ハザードマップ
消防団活動
自主防災組織
施設や企業と
の関係構築
近所付き合い

1. 地震前の災害対応活動

項目	有無	箇所数
公園を使った 防災・避難訓練	有	23
	無	8

施設や企業との
関係構築
近所付き合い

課題：
ハザードマップの想定と異なる場所に被害発生
自主防災組織が機能せず
高齢化により組織的な対応が困難

2. 地震発生直後の公園の状況

避難者の特徴や構成

町内外，外国人，子ども，ペット，昼夜，天候

避難者への対応や共助活動

名簿，支援物資，集会所，車，テント，持寄り

生じた問題と対応

寒さ，支援物資，駐車，水，トイレ

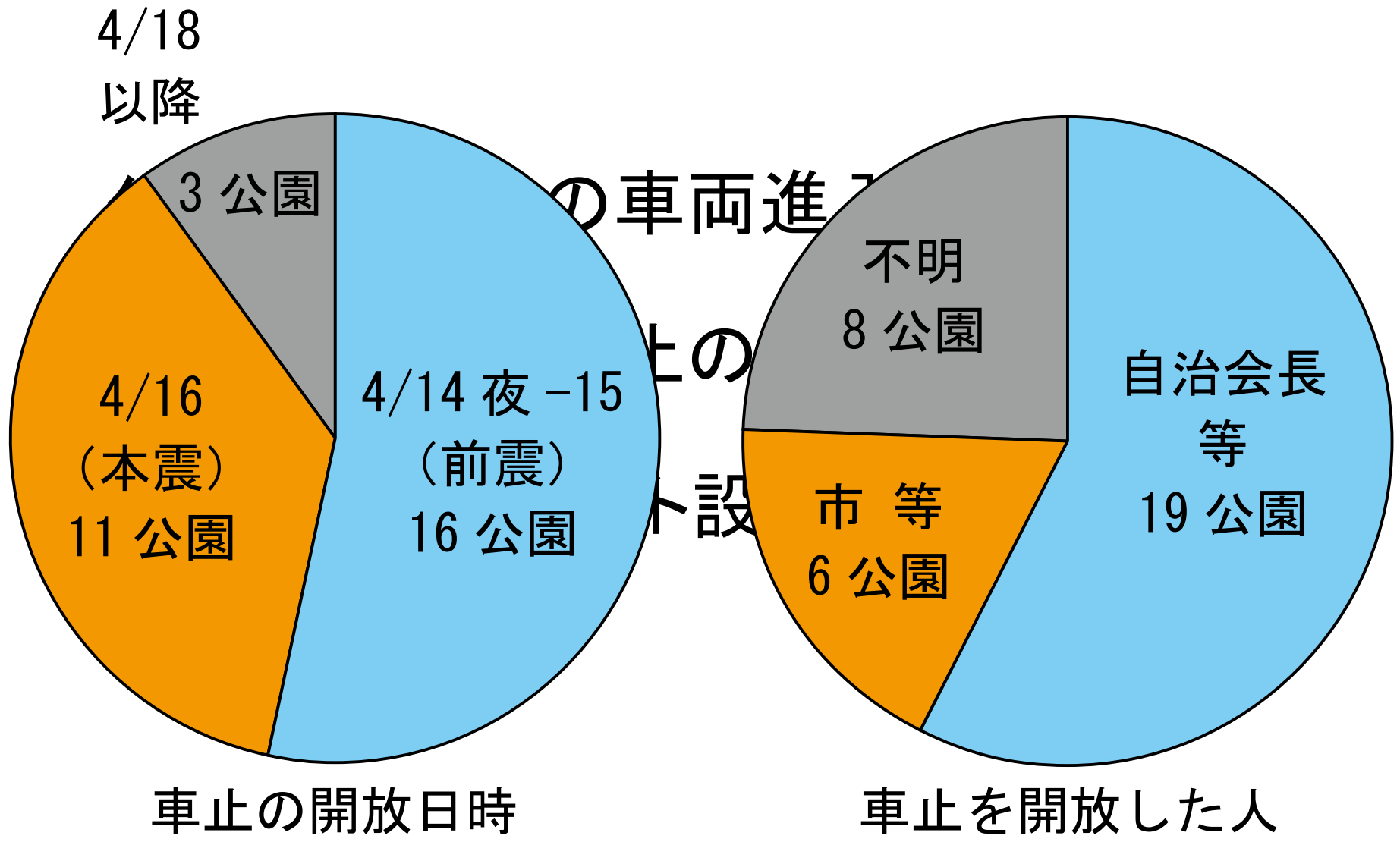
3. 公園における避難地形成の過程

公園広場内への車両進入 30公園

通常は施錠の車止の開放 32公園

避難者によるテント設営 19公園

3. 公園における避難地形成の過程



4. 避難地としての使われ方

※救援・医療拠点としての利用は
ほとんどなかった

【情報収集伝達】

あり	なし	
11	22	被害確認
2	31	救援要請
9	24	支援物資要請
4	29	避難所指定申請
5	28	支援情報の広報

【運営組織拠点】

あり	なし	
6	27	対策本部の設置
2	31	ボランティアの拠点
9	24	毛布衣料等配布

【ライフライン支援】

あり	なし	
4	29	応急給水
14	19	飲料水の配布
19	14	炊出・食料配布
5	28	仮設トイレの設置
2	31	焚火・暖房確保
8	25	携帯電話充電
7	26	テント等資材確保

【防災施設の使用】

あり	なし	
6		備蓄倉庫
4	2	(同事前訓練)
5		耐震性貯水槽
2	3	(同事前訓練)
1	1	マンホールトイレ
1	1	(同事前訓練)
1	3	かまどベンチ
1	3	(同事前訓練)
1	2	非常用電源

(同事前訓練)

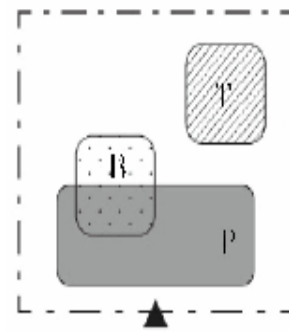
5. オープンスペースの利用

作図: 大阪府立大学

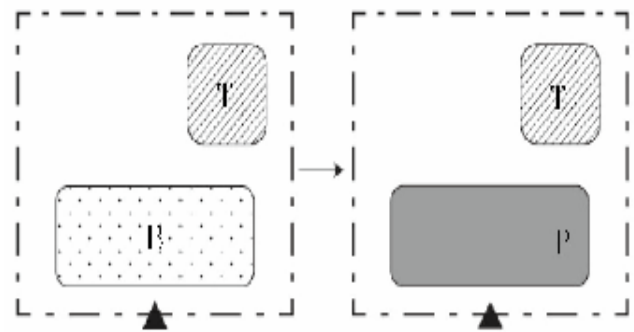
- P: 駐車場
- T: テント
- B: ブルーシート
- 公園敷地
- ▲ エントランス

一部共存型

PTB →

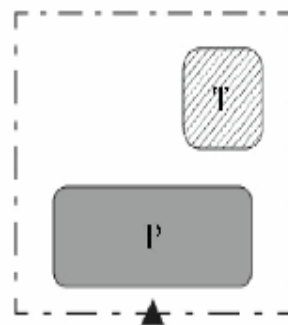


時間変化型

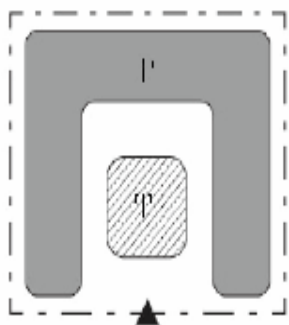


すみ分け型

PT →

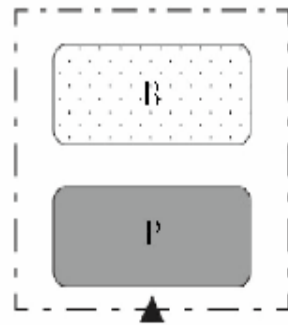


共存型

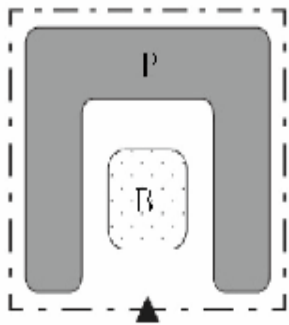


すみ分け型

PB →

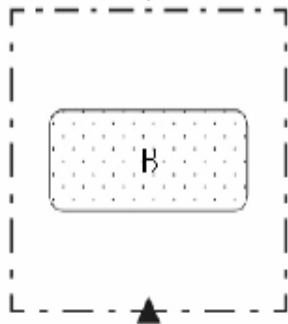


共存型



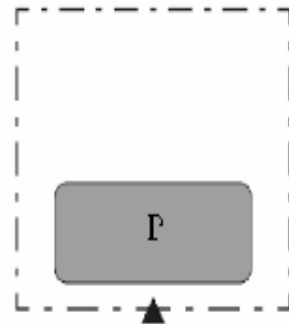
広場型

B →

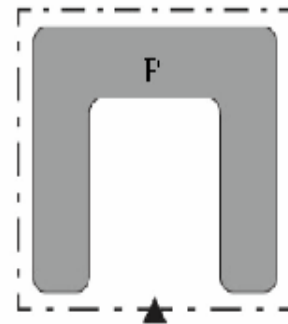


エントランス型

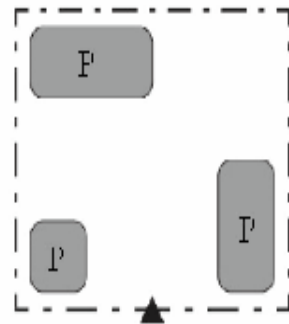
P →



エッジ型



分散型



6. 公園内集会所施設の使われ方

集会所施設がある：17 公園
(老人憩いの家 11, 地域公民館 6)

避難活動の内容	施設数
緊急・一時避難	17
宿泊を伴う長期避難※	7
救援物資の集配	10
炊き出し	8
トイレ使用	12
災害対策本部設置	5

※ 熊本市の指定避難所が開設された
4月20日以降の宿泊



公園内にある集会所施設の例
(泉ヶ丘校区公民館)

- 防災拠点としての有用性
夜間の避難先, 自宅に近い,
日常利用で親しみ
- 施設や運営の問題点
施設の耐震性, 規模,
非常時の管理責任, 経費

6. 公園内集会所施設の使われ方

集会所施設がある：17 公園
(老人憩いの家 11, 地域公民館 6)

避難活動の内容	施設数
緊急・一時避難	【開放期間】 0～1週間 7 1～2週間 2 2～11週間 8
宿泊を伴う長期避難	
救援物資の集配	
炊き出し	
トイレ使用	【収容者数】 10～170人
災害対策本部設置	

※ 熊本市の指定避難所が開
4 月 20 日以降の宿泊



公園内にある集会所施設の例
(泉ヶ丘校区公民館)

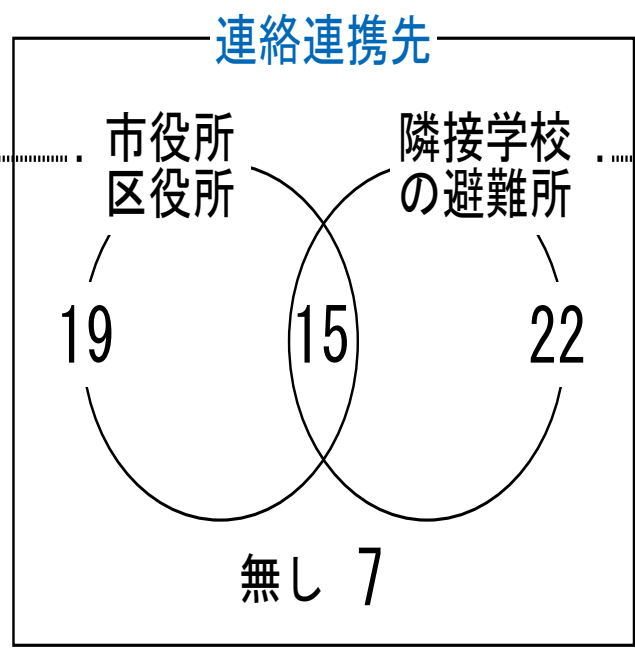
- 防災拠点としての有用性
夜間の避難先, 自宅に近い,
日常利用で親しみ
- 施設や運営の問題点
施設の耐震性, 規模,
非常時の管理責任, 経費

7. 行政や他の避難所との連絡連携

市役所区役所との連絡連携

↓

連絡連携内容	箇所数
救援物資調達	6
状況報告	1
避難者名簿提出	3
病人の対応	1
車止の開錠	2
公園内修繕	2
ごみ処理	4
内容不明	3



隣接学校避難所との連絡連携

↓

連絡連携内容	箇所数
救援物資の調達	4
毛布の貸出	1
情報交換	4
避難状況確認	2
避難所運営支援	5
炊き出し支援	5

挙げられた問題点：

連絡が困難，対応担当者が不明
連絡連携がうまくいかず
自治会役員に負担集中
避難所でなく対応してもらえず

8. ふりかえり

公園の意義と問題点

意義：

広い屋外空間に居る安心感
家に近い，車の避難場所
炊き出しや物資集配の場所
トイレ利用可，水利用可

問題点：

トイレの不具合と必要性
給水施設の不具合と必要性
屋内施設の必要性
トイレ利用のルールとマナー
雨対策，寒さ対策
駐車利用の長期化 他

防災施設と公園内集会所

意義：

備品や貯水槽が役立つ
屋内施設は高齢者に良い
使いやすい，居心地が良い
雨風や寒さをしのげる

問題点：

備蓄品の不備や不足
施設管理の責任が不明確
使用方法がわからず
屋内施設の耐震性
設備類の不具合
閉所のタイミングや後整理 他

災害対応の機能向上に向けて

必要な施設：

仮設トイレ（マンホール穴数を多く）
給水施設（井戸，雨水タンク等）
備蓄品の配置や充実
屋内施設，入口の拡充

利用や管理運営の留意点：

災害対応マニュアルづくり
防災訓練の改善
防災施設整備の行政支援
日時的な公園管理の継続
自治会等の組織体制の維持
普段のつきあいの継続 他

調査結果の活用

- ・報告書を地域（ヒアリング対象者）に送付
- ・報告書を公開

【大都市都市公園機能実態共同調査実行委員会】

- ・政令市，東京都，国交省へ提供する報告書に含む

【国土交通省国土技術政策総合研究所】

- ・防災公園計画・設計ガイドラインの改訂に反映し，
管理運営面の充実化
- ・ガイドライン参考パンフレットの作成



熊本地震における農業支援・農地等復旧 ボランティア実装支援

期間： 平成28年9月～平成29年3月
機関名： 国立大学九州大学 大学院芸術工学研究院
実装責任者： 朝廣 和夫

平成24年7月九州北部豪雨

JST-RISTEX:中山間地水害後の農林地復旧支援モデルに関する研究
災害後の農地復旧のための共助支援の手引き 作成→



平成28年熊本地震 4月

5月 3-5日 造園学会学術委員会調査

6日

西原村農業復興ボランティアセンター始動、9日 朝廣打合せ等

6月18日

熊本県造園建設業協会 西原村草刈りボランティア

7月頃

実装支援申請

8月21日

ふるさと発 復興会議 ～九州・熊本～ in 御船

8月27日

熊本県造園建設業協会 南阿蘇草刈りボランティア

JST-RISTEX:熊本地震における農業支援・農地等復旧ボランティア実装支援

10月29日

熊本県山都町 「ふるさと発 復興会議 ～九州・熊本～」

10～11月

御船町10校区すべてに町長・全課長、ふるさと発復興会議、地区座談会
御船町上村の八勢目艦橋付近の石・砂利の堆積した井出の復旧ボ
ランティアに関する要請

12月3日

御船町上村の井出復旧ボランティア実施

平成29年

1～2月

山都町 農地復旧ボランティアの実施に向け現地調整

3月3日

JST-RISTEX 公開シンポジウム ポスター報告

3月11、12日

棚田の復旧および用水路の泥浚いボランティア実施

4月1日

ランドスケープだより 1号発刊

4月2日

「熊本震災シンポジウム 『陥没へこんで、たまるか！ ～熊本地震～』

4月16日、23日

山都町 用水路の泥浚え、棚田の石拾い

手引き配布

学会による調査、ランドスケープだより発刊

朝廣・研究から実装へ、ふるさと発復興会議等と連携

業界・草刈りボラ

2016年5月6日

西原村農業復興ボランティアセンター始動

- 農家からサツマイモ定植ボランティア
状況：避難生活で手が回らない
5月中に終わなければ収入がない
- 社協は農ボラを実施しない
理由：生活支援でない、収益事業支援
→ 災害ボラセン、話し合い、
ボラの河井昌猛氏に携帯を渡し、
社協と切り離し、農ボラセンを始動
- 女性、子供、リピーターが多数参加
理由：誰でも参加できる。
農家：ボラとの世間話で心が晴れる

視点・論点

- 社協とつかず離れず農ボラは設置できる
- 河井氏のような人材が必要
- 理解者、駐車場、程よい地域規模が良い



2016年6月18日

熊本県造園建設業協会 西原村草刈りボランティア

- 農家からの草刈りボラニーズ
場所：行政区の出事として実施してきた
道路沿道や河川
状況：避難生活で手が回らない
- 社協・農ボラセンは受けない
理由：生活支援でない、安全面
草刈りは被災しても地域で
→ オイスカ、RQ九州等が個別に実施
- 熊本県造協、ボラを検討・実施

視点・論点

- 草刈りは平時も非常時もニーズ高い
- 古くからボラはあるが、一般化していない
- 草刈りボラネットワークが必要では？



2016年8月21日

ふるさと発 復興志民会議 御船町役場

●内容

挨拶 御船藤木町長、河井議長

組織紹介 徳野貞雄(農村社会学)

- ① 集落別の月例会集会を実施する
- ② 農業被害への対応を他事例から学ぶ
農業ボランティア活動の実装を他市町村で検討
- ③ 復興会議 in〇〇を、継続して開催

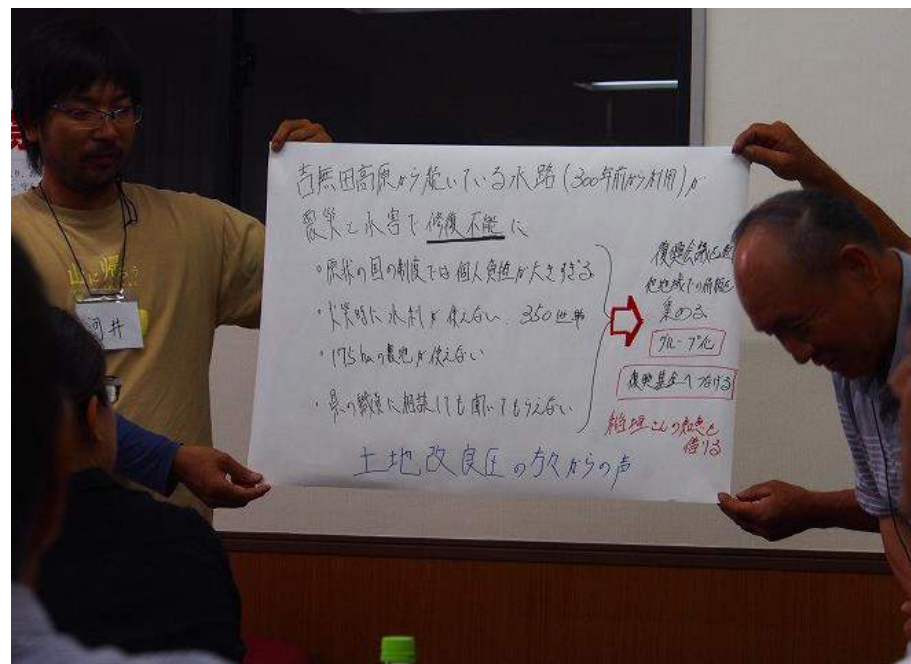
事例紹介

- ・地元住民の話 区長さん
- ・中越地震での経験 稲垣文彦氏
(中越安全防災推進機構 復興デザインセンター町)
- ・農業ボランティア 河井昌猛氏
(西原村百笑応援団団長)

地区別話し合い

視点・論点

- このような座談が、共有と繋がりに寄与
→ キーマンを通じ、NPOによる機動的な支援

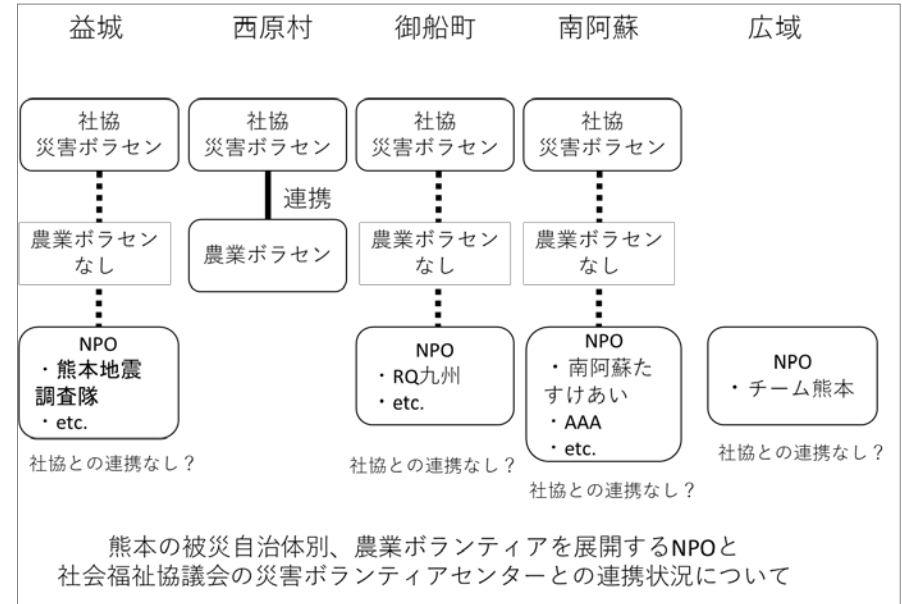


2016年8月

戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)
熊本地震対応
社会実装推進

RISTEX申請書作成

- 農業ボランティア活動の展開状況
西原村農ボラ、7月末まで、延べ2534人
その他、社協と連携した農ボラはない。
個別にNPOが活動を展開
- ふるさと発 復興会議 ～九州・熊本 と連携
理由:生活としての農業復興 支援体制がない
NPOを通じた農ボラ実装で復興の後押し
- 体制
九州大学:朝廣
NPO法人山村塾:小森耕太
ふるさと発 復興会議:徳野、松下、河井



視点・論点

- NPOのみでは、行政との連携が困難な事例多数。復興会議を通じ連携を実現
- NPOにより、偏った支援(必要な場所への効果的な支援)を実現

2016年10月29日

ふるさと発 復興志民会議 山都町

●内容

挨拶 山都町 岡本副町長

全体で2600ヶ所の土砂崩れ

事例紹介

・地元住民の話 下田さん

通潤橋からの水で棚田を継承した白糸地区
文化的景観だが後継者は120世帯中3軒
農村景観はもう農民だけで守っていけない
水害後、「本当に後継者を残さず良かった」
との声も。通潤橋は今ではオブジェ。

・NPO法人山村塾 小森耕太

平成24年7月九州北部豪雨の事例紹介
平時のNPO活動が、災害ボラヘシフトした
市の単独補助を利用(山都町はなし)

・河井氏 西原村百姓応援団

フェイスブックで多くの申込み
一方、ボラに農家が依存してしまう問題

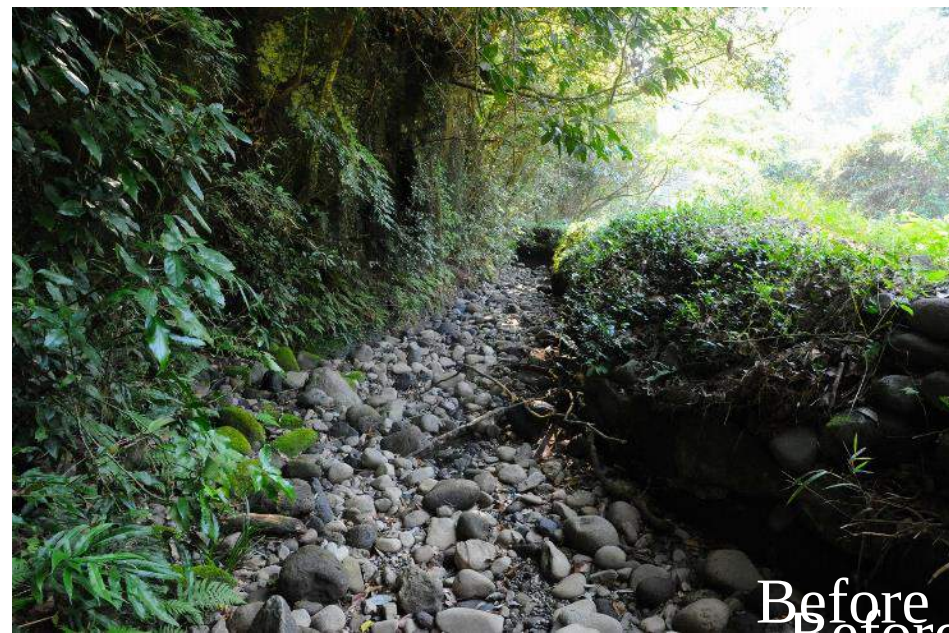
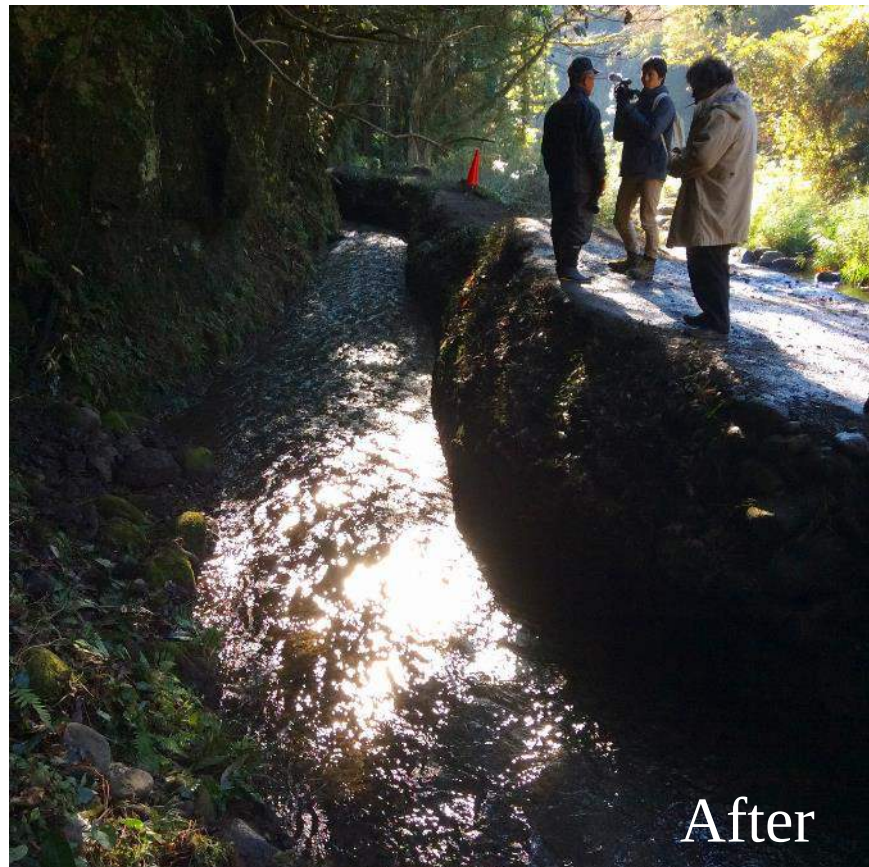


論点:地域もNPOも自立できる活動体制の構築

2016年12月3日

御船町上村 井出復旧ボランティア

一日で作業終了、地元の方からは、
「これで、ゆっくり眠れるようになった。」



2017年2月2日

山都町農ボラ準備

- 熊本県は、40万以下の国の農災対象外の復旧事業を、復興基金を活用し、「農家の自力復旧支援」、3.5億円として計上。対象は、「被災した農地を自ら復旧する農家 補助率:1/2、補助上限:20万円(事業費40万円)／箇所」
- 農ボラへの期待
 - ・ 多くの人の手による早い復旧。できれば、重機オペレーターが欲しい
 - ・ 通潤橋のある観光地でもあり、人に来てもらいたい。
 - ・ 手があることにより、シガラによる伝統的な復旧・景観の保全に資する復旧が可能

視点論点

- 一方で、農家は、基金の自己負担も、ボラへの依頼も断りがち。





3月
11日

棚田再生ボランティア 3/11-12

公開・主催者: 山都町棚田復興プロジェクト

参加予定

シェア

...

作業

- ・地震と豪雨により崩落した棚田の修復作業
- ・棚田や用水路に流入した土砂の撤去作業
- ・重機により復旧された農地の石拾い作業
- ・その他、農業や農家の復興につながること

期間: 一泊二日

宿泊: 公民館(要寝袋持参)

参加費: 3000円

主催: 山都町棚田復興プロジェクト、
山都町役場 共催



2017年3月11日 山都町 棚田復旧ボランティア

写真:黄



2017年3月11日 山都町 棚田復旧ボランティア

写真：黄



2017年3月11日 山都町 棚田復旧ボランティア

写真 黄



2017年3月12日 山都町 棚田復旧ボランティア

写真:黄

新聞報道・出版

2016年12月11日、朝日新聞、通潤橋は残っても 熊本地震 棚田崩れて離農

2016年12月20日、熊本日日新聞、“よそ者”行政、住民をつなぐ

2016年12月21日、熊本日日新聞、「ムラ」復旧後押し交流も

2016年12月22日、熊本日日新聞、自主的再生 住民と一緒に

2017年3月24日、夕刊 読売新聞、熊本 再び緑の棚田を

2017年4月3日、熊本日日新聞、「課題解決 やる気に」 熊本大など 農村部復興を議論

2017年4月11日、中国新聞、農業の支援 なぜ対象外に

2017年4月17日、熊本日日新聞、農村復旧 ボランティアの力を、中間支援組織が活動報告 被災地と市民つなぐ/離農寸前 棚田を修復、九州大大学院朝廣和夫准教授に聞く NPOの役割高まる

2017年5月1日、南日本新聞、農業支援で衰退防げ

徳野貞雄：熊本震災における地域再生の支援活動・6ヶ月の記録：21世紀ひょうご、Vol.21, p3-21

徳野貞雄：「目に見えない」ムラ型震災とは、何か ―「二重の複合型震災」だった熊本地震：農業と経済、2014年4月, Vol.83, No.4, p33-48

河井昌猛：熊本地震での農業ボランティア活躍の舞台裏：農業と経済、2014年4月, Vol.83, No.4, p49-55

後日、国立研究開発法人科学技術振興機構のサイトに報告書掲載予定。

なぜ、農民はボランティアをしない、受入れないのか？

徳野貞雄:「目に見えない」ムラ型震災とは、何か ―「二重の複合型震災」だった熊本地震:農業と経済、2014年4月,Vol.83, No.4, p33-48

佐賀の農民:

～第一に自分の農作業に余裕がない。第二に自分が行って何ができるか
相手の農家に気を使わせるだけ～

鹿児島島の農民:

～ムラにはムラの仕組みがある。他人に頼るよりも自分で生き抜いていく重要性をDNA
として受け継いでいる。～
～現代の消費者は食料を他者に依存する中で、農家の被災に不安を感じている。
だから、軽々と支援にいけるのではないか。～

筑豊の農民:

～被災農家が支援に来てくれた人に対する接待や対応のことを考えると、とても押し
かけてボランティアはできない。～

大牟田の農民:

百姓仕事は自分の仕事。～機械は貸すけど技術は貸せない。農業は孤独であり孤高で
す。

農民の考える農業・農村の「重さ」と、消費者の考える「軽さ」がある。しかし、
リピーターの増える農ボラから、「人をベースとした農業政策」の可能性がある。

- 報道されない農村の被害
- 中間支援組織による対応を

- 復興会議による情報共有
- 地域、行政、NPO、専門家の連携

- 実践的な復興活動
- 早い復興が目に見えることで、被災者の生活に展望がもたらされる
- 支援のリソースを、被災者に繋げる

課題

- 阪神淡路大震災以降の都市偏重復興支援システムの改善を
- 平時、都市農村交流をしていながら、滞る農村支援

→ 緑のボランティアセンターの設置を
 平時：里地里山保全、
 災害時：農業支援・農地等復旧支援

センター機能、
 行政、企業、NPOの連携体制が要

農林漁食 Agriculture, Forestry, Fisheries & Food 平成29年(2017年)4月17日 月曜日 4

農林漁食 月曜刊 掲載(第1月曜刊)

農村復旧 ボランティアの力を



被災地と市民つなぐ／離農寸前 棚田を修復

中間支援組織が活動報告

熊本県とその他の被災地へ、年々、県内外の学生や社会人、企業などがボランティアとして参加している。その数は、今年も増加傾向にある。ボランティアの活動は、被災地の復興に大きく貢献している。ボランティアの活動は、被災地の復興に大きく貢献している。ボランティアの活動は、被災地の復興に大きく貢献している。



九州大学大学院 朝霞和夫准教授に聞く

NPOの役割高まる

九州大学大学院 朝霞和夫准教授に聞く

事例紹介

九州大学大学院 朝霞和夫准教授に聞く

事例紹介

九州大学大学院 朝霞和夫准教授に聞く



集落景観について ～変わったもの と 変わらないもの～

熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学科
柴田 祐

人的被害

2017/5/2現在

死者

225人

- ①警察が検死により確認している死者数 50人
- ②災害による負傷の悪化又は避難生活等
における身体的負担による死者 170人
- ③②のうち市町村において災害弔慰金法に基づき
災害が原因で死亡したものと認められたもの (167人)
- ④6月19日から6月25日に発生した豪雨による被害の
うち熊本地震との関連が認められた死者数 5人

	①	②	③	④	計
熊本市	4	66	63	2	72
益城町	20	17	17	0	37
南阿蘇村	16	11	11	0	27
西原村	5	3	3	0	8

重軽傷者

- ①熊本地震による被害者 2,691人
- ②6月19日から6月25日に発生した被害のうち
熊本地震との関連が認められた被害者 3人

家屋の被害 2017/5/2現在

全壊	8,664棟	4.5%
半壊	34,026棟	17.9%
一部損壊	147,742棟	77.6%
計	190,432棟	

※熊本地震等に係る被害状況について
【第237報】より



公費解体 2017/4月末現在

申請数	34,178棟
解体済	21,939棟
進捗率	64.2%

※災害廃棄物の処理状況及び損壊家屋等の
公費解体の状況（平成29年5月17日発表）



※解体終了時期
熊本市 H30.03
益城町 H29.12
西原村 H29.07





益城町
高橋商店

茶・八女の銘茶
煎茶・高級和菓子
全国発送・自宅配達承ります

カギと錠
☎ 286
☎ 286

































外牧神社. (大津町) (160505)







外牧神社（大津町）（160505）



あいつは、心ももつて、

大正七年、八月、













「花で村を元気に」と活動するボランティア団体「Noroshi 西原」（中村圭代表、約20人）が西原村大切畑で企画。地震で全壊後に再建された菓子店「サカタスweets」の周囲の畑や家屋解体後の更地計約2,000m²に種をまき、約2万本を咲かせた。













くまもと型復興住宅とは

熊本の気候・風土等地域特性に配慮した住宅

熊本県産の木材など地域産材を使用した住宅

耐震等級3又は3相当の地震に強い住宅

被災者の住宅再建を考慮した良質でコスト低減に配慮した住宅

県内に本社を置く住宅事業者、大工・工務店が建設する住宅

熊本県地域型復興住宅推進協議会

県内の住宅生産や林業・木材関連産業に関わる12団体により、国土交通省や熊本県、独立行政法人住宅金融支援機構と連携して平成28年7月20日に発足

ご清聴ありがとうございました





熊本地震復興支援調査報告会 — 自然公園 —

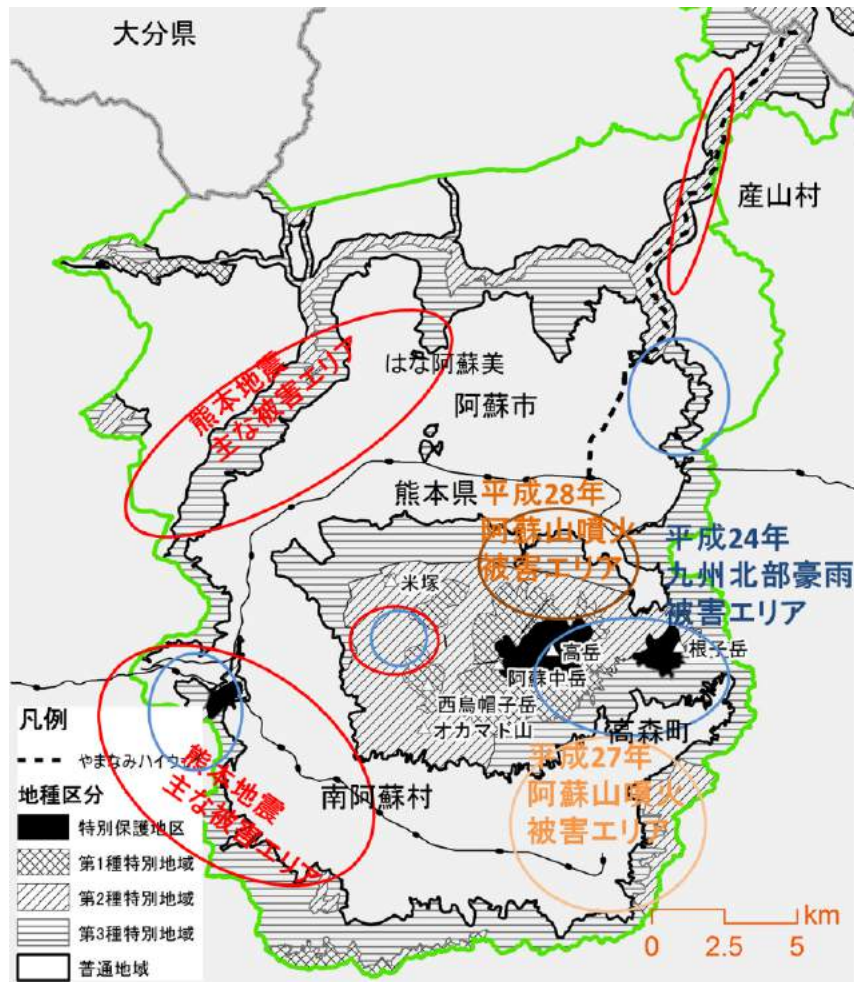
2017年5月21日 日本造園学会
町田 怜子
(東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科)

近年の阿蘇地域における自然災害

災害		主な被害
九州北部豪雨 (平成24年7月)		大雨による豪雨被害。 阿蘇市、南阿蘇村西部で被害大。
阿蘇山噴火 (平成27年10月)		爆発的噴火。人命被害はなし。 高森で農業被害大。
熊本地震 (平成28年4月)		震度6、震度7の地震 発生。阿蘇市と南阿蘇 村西部で被害大。
阿蘇山噴火 (平成28年10月)		爆発的噴火。人命被害はなし。 阿蘇市東部で被害大。

災害ごとに異なる地域の被害状況

- ・地域ごとに異なる自然災害(地震、水害、噴火)
- ・被災状況により異なる地域住民の認識
- ・インフラ整備、復旧工事の遅れによる孤立化



自然公園だからできる熊本・阿蘇の復興

①観光と創造的復興

- ・震災ツーリズム
- ・レストランバス



②環境教育とふるさと学

- ・草原学習
- ・ふるさとを語る哲学対話



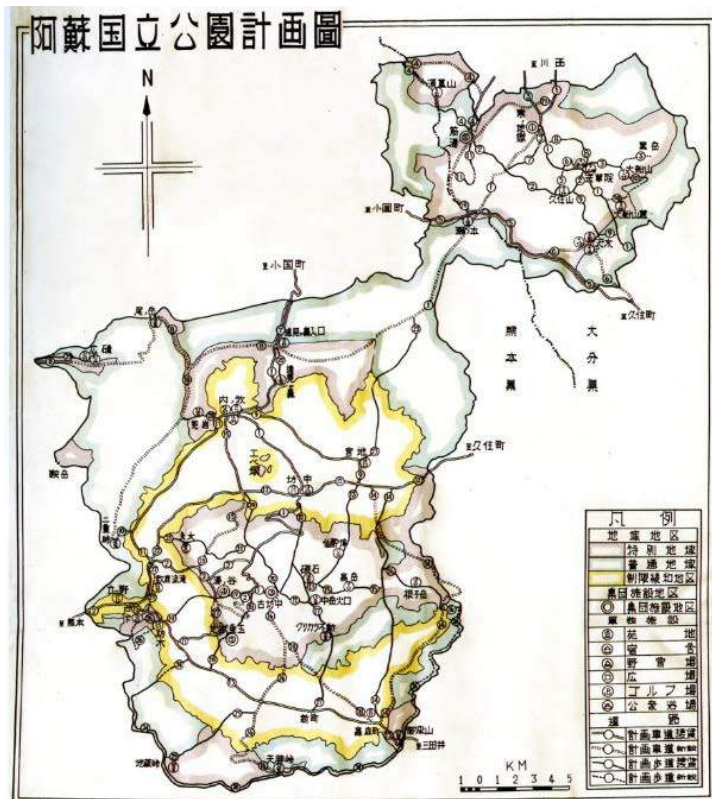
③阿蘇らしい復興・地域づくり

- ・国立公園インバウンド、世界文化遺産登録にむけた動き
- ・被害格差を補完する多様な主体によるネットワークの構築
- ・震災からの教訓を観光、防災教育の資源として活用

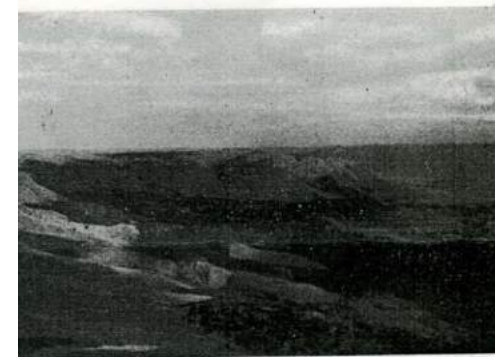
観光と創造的復興：国立公園指定時における観光の位置づけ

阿蘇くじゅう国立公園指定時から道路等のインフラ整備による観光計画を検討し、それに基づく阿蘇登山道路等インフラ整備により阿蘇山の観光利用が定着したといわれている

- ・岡野隆宏(2013):わが国最初の国立公園選定の際の風景評価, ランドスケープ研究(オンライン論文集) 6(0), 18-24
- ・田村剛(1930):国立公園と遊覧検討, 国立公園第6巻 pp 2
- ・黒田乃生(2012):阿蘇山の国立公園指定の経緯と観光登山の変遷, 日本造園学会誌Vol.5, pp55-62



厚生大臣官房国立公園部(1952)
「阿蘇国立公園計画」
阿蘇くじゅう80年記念誌より抜粋



山輪外部北

観光と創造的復興：災害時の多面的ネットワーク

平時

【地域住民】

農業や地域の伝統的行事による
地域コミュニティの共助



【地域外住民】

観光やボランティアとしての関わり



【大学】

研究フィールドとしての関わり



災害時・復興

【地域住民】

共助により力強く災害を乗り越える住民



【地域外住民】

交流を通じた災害復興を担う主体

例) 牧野組合への募金
震災支援・観光ツアー



【大学】

研究ネットワークを活かした支援活動

例) 募金、復興マルシェ



観光と創造的復興：阿蘇の農家による取組

レストランバスツアーの企画



レストランバスの主催者・農家

地震直後の避難生活 4月21日(地震発生5日目)



地域の共助活動 4月19日(地震発生3日目)









環境教育とふるさと学

震災後は子ども達の心理的ケアが必要。
『自然公園』が震災後のふるさとを見つめる環境教育の素材となる



プログラム内容

- ①阿蘇の暮らし、農業が世界の宝になった阿蘇
(世界農業遺産、世界ジオパーク)
- ②阿蘇の草原と暮らし
- ③阿蘇の草原が好きでボランティア活動にくる人々
- ④東京で阿蘇を応援している人々



身体を動かしゲーム形式で、阿蘇・南阿蘇の魅力を学ぶ

①阿蘇の秋の七草で中学生・小学生混合のチーム作り

②クイズ形式の学習



阿蘇の野の花を草原学習で体験的に学ぶ

ネイチャーゲーム

野の花ビンゴ

草原に咲いている阿蘇の野の花を、写真とヒントを元にして
次の16種類の花を見つけてみましょう。

			
オミナエシ(オミナエシ科) 花の色:黄 高さ:1m位 ・独特においがあ	ミヤコグサ(マメ科) 花の色:黄 高さ:20cm位 ・葉は5枚に分かれる	コウゾリナ(キク科) 花の色:黄 高さ:80cm位 ・茎(くき)がざらざら	カワラナデシコ(ナデシコ科) 花の色:桃 高さ:1m位 ・なでしこジャパンの花
			
サワイヨドリ(キク科) 花の色:桃 高さ:80cm位 ・小さい花がたくさん咲く	タチフウロ(フウロソウ科) 花の色:桃 高さ:50cm位 ・花びらは5枚でピンク	シオガマギク(キク科) 花の色:桃 高さ:1m位 ・花びらがねじれている	ヒメアザミ(キク科) 花の色:桃 高さ:1m位 ・葉はさわると痛い
			
ヤマハギ(マメ科) 花の色:紫 高さ:1m位 ・小さい花がたくさん咲く	サイヨウシャジン(科) 花の色:水色 高さ:1m位 ・筒(つつ)型の花	クサフジ(マメ科) 花の色:水色 高さ:50cm位 ・他の草にからみつく	アレノギク(キク科) 花の色:水色 高さ:80cm位 ・茎がざらざらしている
			
ススキ(イネ科) 花の色:茶色 高さ:1m位 ・穂(ほ)をお月見にかざ	ヤマハッカ(シソ科) 花の色:紫 高さ:80cm位 ・茎は四角形をしている	ノダケ(セリ科) 花の色:白 高さ:1m位 ・傘(かさ)のような花	ワレモコウ(科) 花の色:赤 高さ:1m位 ・長さ1cmくらいの赤い花



阿蘇の復興に向けた東京の活動を知る

東京農業大学 募金 開始 4月18日(地震発生2日目)



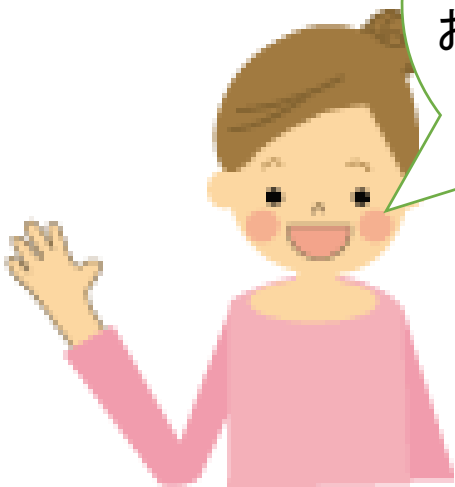
阿蘇の復興に向けた東京の活動を知る

こんな気持ちで阿蘇のお野菜、おかしを買ったよ

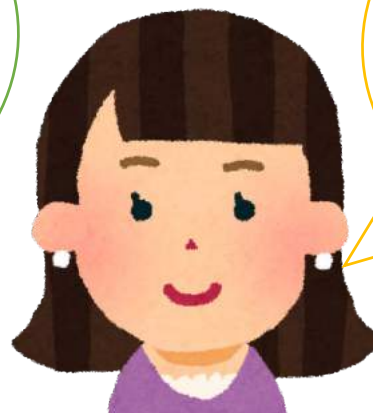


阿蘇に行ったことがある。
とてもすてきな場所だったから
阿蘇をもうえんしたい！

阿蘇のお野菜、
お菓子おいしい！！



阿蘇のお野菜は
環境によくて
健康によさそうだわ



- ・東京農業大学のお兄さん、お姉さんもっともって遊びにきてください
- ・阿蘇から遠く住む東京に阿蘇を思ってくれる優しい人がいる。



南阿蘇郡高森町議会で中学生が提案
「阿蘇の植物保護と地域への発信のために、自分達ができること」

今後の草原学習の要望として、自然災害を乗り越えてきた阿蘇の歴史を学ぶプログラムや、地域の絆を深めるプログラムの要望が挙げられた。

国立公園満喫プロジェクト 阿蘇くじゅう国立公園コンセプト

「復興の大地～草原のかほり、火山の呼吸。人が継ぎ、風と遊ぶ感動の大地～」

①千年もの間、人間の手で引き継がれた広大な草原空間の活用と保全

②火山と草原が創りだした大景観の力の体感

③自然の中で育くまれてきた地域特有の文化、多様な温泉・湯治文化

④災害の体験を活かし、安全に楽しめる国立公園へ

⑤世界水準を目指した更なるブランド化

【ターゲット】

上質感のあるサービスを求める個人旅行者

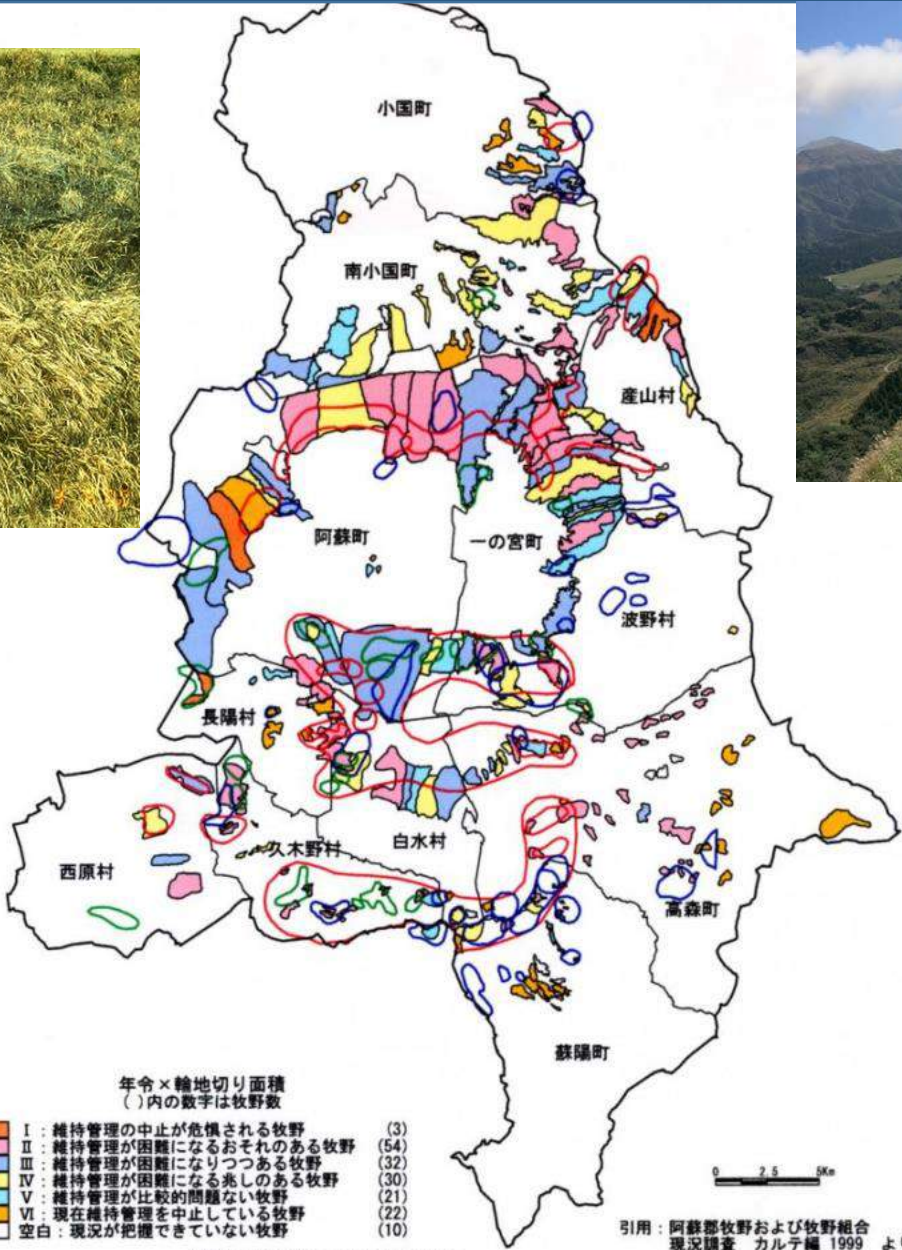
国立公園満喫プロジェクト 上質な景観の保全



野焼き



輪地切



沿道の小規模樹林



展望地を遮断する立木

阿蘇らしい復興・地域づくり



阿蘇らしい復興・地域づくりにむけて

- ・阿蘇の自然資源を活かした復興・地域づくり
- ・地域住民、移住者、ボランティア、観光客, 多様な主体のネットワークによる被害格差の補完
- ・地域の伝統知(ローカル知)から導く復興、観光、防災計画



2017年度日本造園学会全国大会
熊本地震復興支援調査報告会
2017年5月21日

【報告】 -ランドスケープ遺産-

九州大学大学院 藤田直子

(造園学会九州支部・ランドスケープ遺産委員会コアチーム)



Landscape Ecology Fight
Fujita Lab., Kyushu University
since 2010





熊本地震復興支援調査委員会

公園緑地

農業支援

集落景観

自然公園

ランド
スケープ
遺産

ランドスケープ遺産部門の これまでの調査活動

2016年4月～2017年3月
熊本地震発生から一年間



自然風景地



自然風景地



自然風景地



生活・生業・信仰等により
形成された空間・景観



生活・生業・信仰等により
形成された空間・景観



生活・生業・信仰等により
形成された空間・景観

生活・生業・信仰等により 形成された空間・景観



生活・生業・信仰等により
形成された空間・景観

A photograph of a forest path. In the foreground, a blue double-headed arrow signpost is mounted on a bamboo pole. To its right is a stone pillar with a metal chain wrapped around it. A metal chain barrier runs across the path. The background is a dense forest with sunlight filtering through the trees.

生活・生業・信仰等により
形成された空間・景観



生活・生業・信仰等により
形成された空間・景観

A photograph of a gravel path with large, dark, cylindrical stone pillars. In the background, a person's legs and feet are visible. The text "生活・生業・信仰等により
形成された空間・景観" is overlaid in the center.

生活・生業・信仰等により
形成された空間・景観

【報告】
-ランドスケープ遺産-

- ▶ ランドスケープ遺産の趣旨を踏まえた震災復興計画への貢献を目指したい

『傾聴ヒアリングを通じた被災地住民が抱く地震と風景に対する思いとその変化に関する研究』



調査1. 地震と風景についての ヒアリング調査

対象者の主観で、地震によって
変化があったと思う場所について
聞き取り

- 1組あたり30分～2時間
- 1日当たり1組～3組の調査を実施
- 2016年8月～10月実施

調査2. 写真による記録

ヒアリングで挙げた場所、被
害のあった場所

- 2016年8月～10月

実施日	対象者	職業
2016/8/24	A	ジオパーク関係
2016/8/25	B	Y町教育委員会
2016/9/3	C	写真家
	D	農業幹旋
	E	農家（移住）
2016/9/24	F	農家（移住）
	G	S地区区長
	H	自営業
2016/9/25	I	農家、大学教授
2016/9/26	J	南阿蘇村役場
	K	
	L	村議会議員
2016/10/29	M	農家（移住）
	N	観光業（移住）



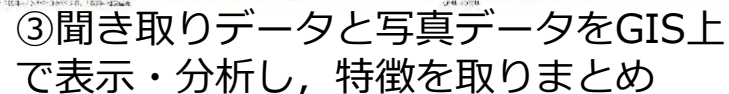
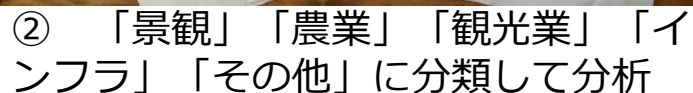
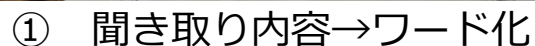
傾聴ヒアリングの実施





ヒアリングで発話が認め
られた場所の写真撮影

九州大学芸術工学部 河合南乃香
九州大学芸術工学部研究員 藤田淳子
写真提供 長野市由「ゼロの回廊」



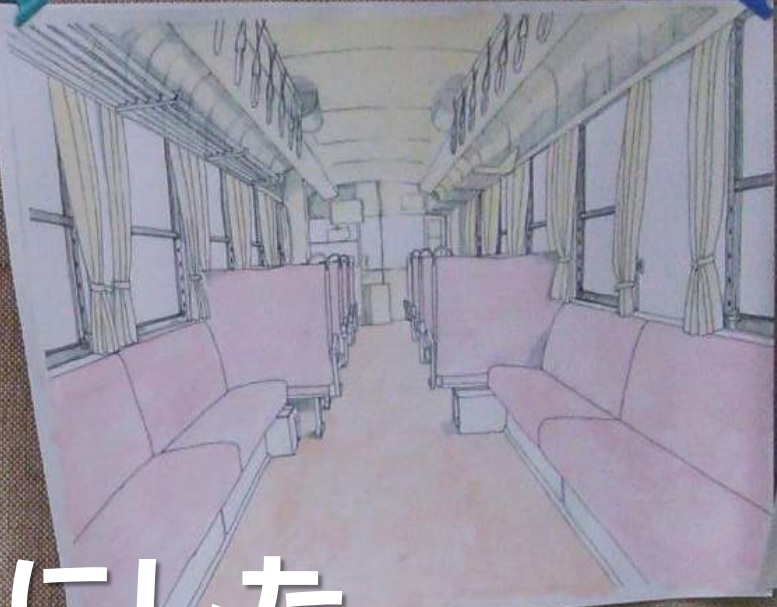
みらいのきおく a Reminiscence of a Future

南阿蘇村という小さな村があります。
そこには一本の電車が走っていて、学校に通う学生や、病院に行くお年寄りが乗ったり、
観光に来た人たち、旅をする外国の人も使っていました。
のどかな田舎、高い橋と大自然、どっしり構える山々、駅で手を振る人、
たくさんの人を乗せて、コツコツと、行ったり来たり、
電車は村の人と一緒に生きています。

ある時、大きな地震があって、
その電車は走れなくなりました。

3ヶ月以上経って、半分だけ走れるようになりましたが、
遠くまで行けないし、高い橋の上も通らないので、
電車に乗る人はとても少なくなりました。
代わりに線路を歩いて、電車を応援しました。

藤田研究室 河合甫乃香



研究成果を元にした 絵本の制作



絵本の発表展示

2017年4月

南阿蘇鉄道復活祭



絵本の発表展示

2017年4月

南阿蘇鉄道復活祭



2017年度日本造園学会全国大会
熊本地震復興支援調査報告会

ランドスケープ遺産部門の これからの調査活動

2017年4月～2018年3月
熊本地震発生から二年目

【ランドスケープ遺産とは】

日本造園学会ランドスケープ遺産インベントリー作成委員会 抜粋

- ランドスケープは移り変わっていくものですが、将来に向けて継承したいものもあるはずです。そうした個性豊かなランドスケープが地域らしさの維持や形成に深くかかわります。このような対象を「ランドスケープ遺産」と呼ぶこととします。
- それは必ずしも古いものとは限らず、将来に受け継ぎたいという思いが遺産という価値を与えるものです。

【ランドスケープ遺産インベントリ】

▶ 日本造園学会が実施する造園や景観の目録作り

- 物件の収集は学会各支部が担当
- 統一フォーマットのリストを提出
 - リストの項目
 - 名称や概要
 - 所有者や管理者
 - 保全体制
 - 将来性 等 写真データも併せて提出

九州支部におけるこれまでの取り組み 九州沖縄全県めぐりワークショップ

1. 一順目(2013年度)
2. 二順目(2014年度)



九州支部におけるこれまでの取り組み 九州沖縄全県めぐりワークショップ



九州支部におけるこれまでの取り組み 九州沖縄全県めぐりワークショップ



九州支部におけるこれまでの取り組み 九州沖縄全県めぐりワークショップ

約 1,500件
➤ 熊本: 172件
➤ 大分: 56件



九州支部が掲げた方針

- ◆ 地域資産の保全や維持に繋がりたい
- ◆ 地域に対する愛着や誇りの醸成
- ◆ 地域振興の一助に

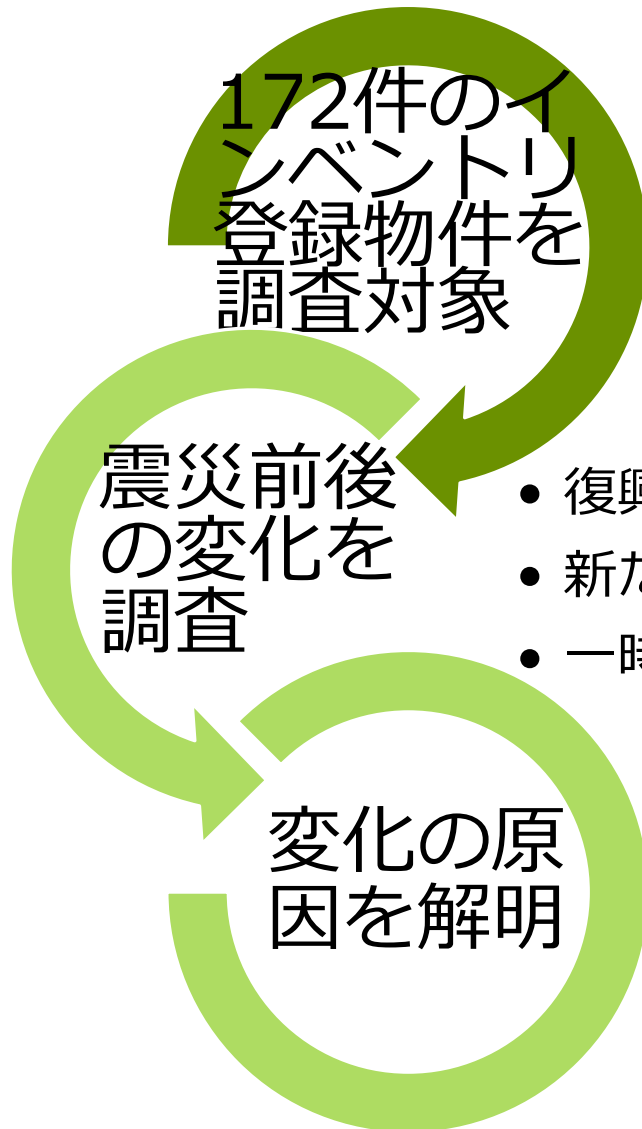


九州支部ではこの取り組みを

地域の風景の「宝さがし」

と捉え、活動してきた

今後の活動方針



- インベントリ収集の意義を再認識して活動する
- 九州支部が産官学で取り組んできた活動成果を活かす調査活動を行う
- 復興過程で消失したランドスケープ
- 新たに誕生したランドスケープ
- 一時的に変化し、再生したランドスケープ
- 地震による変化（直接的な被害が原因であるもの）
- 安全性や利便性を求めた変化（復興する）

九州大学芸術工学研究院藤田直子研究室

河合甫乃香

2016年度所属学生一同

村田美弥

日本造園学会九州支部ランドスケープ遺産コアチーム

徳永哲，西川真水，田代和則，正田実知彦，藤田直子

写真提供

造園学会熊本地震復興支援調査委員会



Landscape Ecology
Fujita Lab., Kyushu University
since 2010

